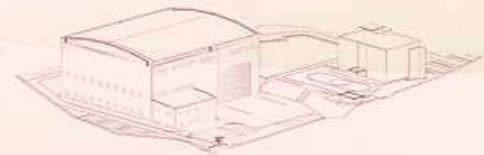


櫛葉遠隔技術開発センターの整備状況 (試験棟完成式)

平成28年3月31日

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構



研究拠点整備(櫛葉遠隔技術開発センター)の全体概要

1F廃止措置推進に必要な不可欠な遠隔操作機器や放射性物質の分析・研究等に関する技術基盤を確立するため、福島県内に研究拠点を整備。

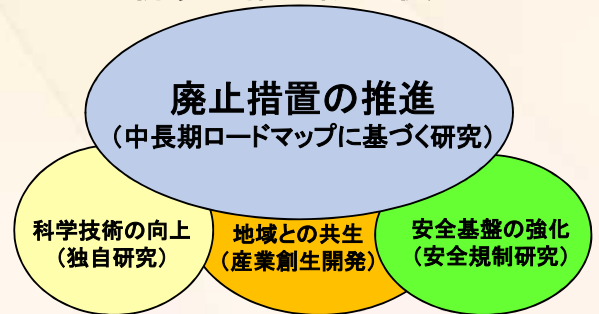
○遠隔操作機器・装置の開発・実証施設
(櫛葉遠隔技術開発センター)

2015年10月に研究管理棟が完成し、開所

2016年 2月に試験棟完成

3月にPCV下部実機模擬試験体が完成
試験棟完成式を実施

新規整備施設の役割



項目	年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
櫛葉遠隔技術開発センター	設計											
	建設※											
	試験運用期間											
	本格運用期間											

※研究管理棟が完成し、10月19日に開所式を実施。また、試験棟が完成し、3月30日に試験棟完成式を開催。



研究管理棟：幅35m × 奥行25m × 高さ20m

試験棟：幅60m × 奥行80m × 高さ40m



試験棟完成式の開催

日時: 2016年3月30日(水) 13時30分～14時30分
 場所: 福島県双葉郡楡葉町大字山田岡字仲丸1番22
 楡葉遠隔技術開発センター 試験棟(楡葉南工業団地内)
 参加者: 約150名



研究管理棟



試験棟

楡葉遠隔技術開発センター



来賓のご挨拶(高木経済産業副大臣)



感謝状授与(内装機器工事代表:会川鉄工㈱)



式後の内覧の様子

【来賓の方々】

- ・高木経済産業副大臣
- ・豊田文部科学大臣政務官
兼 復興大臣政務官
- ・鈴木副知事
- ・松本楡葉町長

【感謝状を授与した方々】

- ・内装機器工事(11社)
- ・試験棟工事(48社)
- ・研究管理棟工事(25社)
- ・杭工事(5社)
- ・実施設計(1社)



楡葉遠隔技術開発センター 研究管理棟の主な機能

研究管理棟



3階



「150人規模の会議
が開催可能な設備」
(多目的室)

2階

現場で得られた知見
・経験等のフィード
バックや蓄積



現場作業

確実な作業
の実施

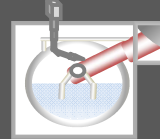


VRシステム

安全・確実
効率的な作業実施

効果的な作業手順、
試験方法、安全な作業

実証試験



作業者訓練等を通じた「安全・確実な作業
に向けた取組み」等
が可能な
バーチャルリアリティ
システムを整備(2号
機の1階と地下1階を
再現)。

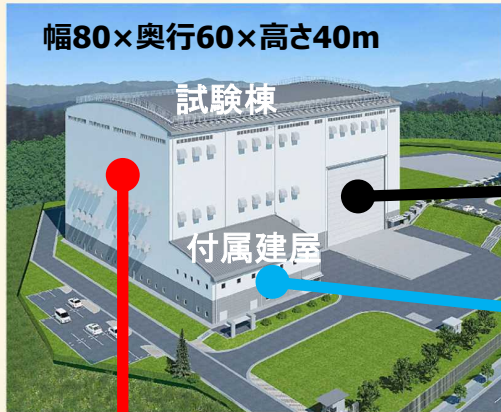
- 作業計画の立案・事前検証
- 作業の事前訓練

- 作業計画の検証
- 作業訓練

今後も継続して、事故後の東電福島第一原発をバーチャルで再現



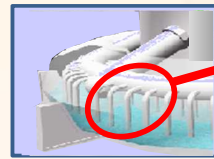
試験棟



IRID: 国際廃炉研究開発機構

止水試験エリア

実物大の寸法の機器を
1/8 切り出した試験体



20×18×18m

IRIDによる開発プロジェクト

研究活動推進エリア

遠隔操作機器の補修・改造、
実験データ解析・整理等に活用

- 研究室7室 (50m²/1室)
- 工作室1室 (旋盤、ボール盤、
フライス盤、検査機器等完備)
- 1年中稼働が可能



要素試験エリア

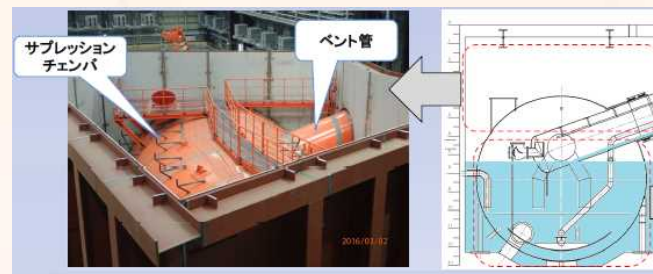
1F建屋内の作業環境をリアルに
実物大で再現



今後の予定

○本格運用の開始 (平成28年4月～)

- ① IRIDによる原子炉格納容器 (PCV) 漏えい箇所の補修・止水技術の実規模試験
- ② 試験設備 (水槽、モックアップ階段、モーショキャプチャーなど) を使った各種要素試験
- ③ ロボット競技会などの人材育成プログラム
- ④ 多目的室を使った各種会議等の開催
- ⑤ 地元企業などによる技術展示会の開催 等



実規模試験 試験体内部状況

○施設利用 (利用公募)

- ・ 本年 5月頃: 平成28年度下期の利用申込受付
- ・ 11月頃: 平成29年度の利用申込受付

※これ以外の期間も随時、利用申込受付中

